【学校向け・地域向け】【協力・実践形態：長期・単発】【本会ホームページへの掲載：あり・なし】

みんな集まれ　この指と～まれ　「いどばた」

木野　登紀子
[推進員認定期] 第2期　[所属] いどばた（視覚障がい者）　[活動エリア] 県域（東武東上線沿線が中心）

学習対象者	□小学生（　年生）□中学生　□高校生　□住民　■その他（視覚障がい者＋晴眼者　）
内　　容	□障がい理解（車いす体験、アイマスク体験、障がい者と交流、施設体験、その他（　　） □高齢者理解（高齢者疑似体験、高齢者と交流、施設体験、その他（　　） ■その他の理解（視覚障がい者同士の自助活動（交流、地域での願いの実現等）
所用時間	開催回数：月１回（１０～４時）　※設立：２００５年７月
ねらい	視覚障がい者が、何でも言える、自分自身に正直に素直になれる、周りの人を大切に思える、そんなあったかい場所をつくる。

はじめに

私は、弱視という障がいを持った主婦である。県で福祉教育推進員の認定は受けたものの、自分の地域でどんなことができるか悶々としていた。そんな中で県内外の様々な福祉学習会に積極的に参加し、多くの人に出会う中で、「視覚障がい者は情報が少ない、誰に相談してよいか分からないという不安を抱え、ひきこもっている人がたくさんいる、なんとかしなくちゃ」という思いがわいてきた。そこで、私なりに推進員としてできることとして、「この指と～まれ」を合言葉に、視覚障がい者をはじめみんなが気軽に集える場「いどばた」を2005年に作り上げた。

実践内容

【活動場所】 管理人　木野宅、市民活動センターなど　　**【参加費】** 300円（菓子代等）

【参加人数】 10～40名程度（回によって異なる）

【活動内容】 参加者の希望により、毎回決定する。

【活動実績】
○自己紹介、近況報告、10分間スピーチ、グループ討議、セッション
○業者や行政職員を招いての学習会
○歩行訓練、市内散策、県内外の行事への参加
○生活便利グッズについての情報交換と作成

《手作りグッズ例》黒地に白文字の手帳（弱視をもった人でも見えやすい）
手でさわってわかるボツボツ付きのカレンダー（点字が読めない人でも分かる）、手でさわる地図

ここがポイント！

① 会ではない集まりなので、会則もなければ決まった行事もない。参加者の意見・要望により、プログラムを決めて、皆で作り上げる。

② 視覚障がい者が自立するためには、何でもしてもらうのではなく、できることは何でもする、できないことだけサポートしてもらうというスタンスを大切にする（晴眼者は友人・仲間としての参加）

③ 地元の毛呂山町にこだわらず、県内各地の方、外国の方（ベトナム）など、集いたい人なら誰でもが参加でき、みんながつながれる。口こみで輪が広がっている。

④ 約束事を定め、みんなで守っている。

1　相手の話はよく聞き、否定・批判は絶対にしない。
2　求められた時以外は、アドバイスしない。
3　プライバシーに関することは、絶対に口外しない。
4　時間は対等に、皆が平等に話せる時間を配慮する。
5　全てにおいて、無理することなく、マイペースを守る。

成果と課題

【成果】

① いどばたのメーリングリストを介して情報を発信することにより、情報盲だった仲間が外に出ること。行事に参加することの喜びを知り、人任せだったその参加も「参加集約」から「当日の世話役」まで引き受け、さらには、自らが行事の企画運営まで行う。まさに、自立への道を一歩ずつ前進し始めた仲間が増えてきている。そこには、自分とは違う相手を思う心、認める心がしっかりと根付いている。

　また、メンバーによるピアカウンセリングを受けている利用者や、「いどばた」の口こみで誘われた人など、今まで家にひきこもりがちだった視覚障がい者が、「いどばた」への参加をきっかけに外に出られるようになった。

② いどばたのメンバーの願いであった「ライブ音声ガイド付き映画」の実現。そのための、音声ガイドボランティア団体「声なびシネマわかば」の設立。自分たちの周囲の様々な人や団体に協力を呼びかけ、思いがかなった。

（協力者：地元の映画館、都内の音声ガイドボランティア団体、舞台俳優（音声ガイド養成ボランティア講師）、地元の社協、あったかウェルねっとなど）

【課題】

　まだ、家から出られない仲間がいっぱいいる。外に出て「生きることを楽しみたい」と思えるように輪を広げていきたい。